

物語の構成要素を整理する ～マインドマップとマンダラート～

江田島市立中町小学校 表田さかえ

1 実践の趣旨

第5学年である本学級の児童は、第4学年が国語の学習で行ったアンケートに対し、国語を苦手な科目として挙げている。苦手な理由は次のとおりである。

- ・漢字を覚えなければならない。
- ・文章を読むのが面倒で、何が書いてあるのかわからない。
- ・文章問題のテストがわからない。
- ・言葉の意味がわからない。
- ・音読が面倒。
- ・文章を書くのが面倒。

この実態を踏まえて物語を書かせるとき、国語や文章を書くことに対する苦手意識を払拭しながら取り組ませたいと思い、マインドマップとマンダラートを取り入れて本実践を行った。

児童は物語を書くことについて、第3学年の単元『たから物をさがしに』で、お話の続きを想像して書く学習をしている。主人公や場の設定などは決まっており、児童は続き話を楽しく創作した。

今回の実践では、一枚の写真から想像したことを物語にする。

設定が自由であるため、書きたい物語に必要な要素や終末などを自己決定しなければならない。

それらを明確にすることで、児童は想像を膨らませながら書きたい物語を書くことができる。物語のキーワードと筋を明確にさせる前段階のツールとして、マインドマップとマンダラートを活用した。

マインドマップは、自分の考えや他人の意見をまとめたり本の内容や学習したことなどを再構成したりしていく上で有効な手法である。逆に、テーマ・目標となるものを中心に絵で表現したり、連想されるキーワードを放射状に広げたり、イメージやカラーを使ったりすることで、右脳と左脳を使った発想をすることができる。

マンダラートは、個人の頭の中を整理する道具となる。9マスの中央にテーマを書き、その周りに自分のテーマについて考えたことを順番に書いていく。書く欄が8個しかないため、優先順位を意識させることができる。

物語を豊かに想像しながら創作する意欲を引き出し、物語の構成要素の整理していく。つまり、マインドマップで発想したたくさんのイメージをマンダラートで整理し、児童が楽しみながらスムーズに物語を創作する活動に取り組むことができると考えた。

2 実践の概要

(1) 単元名 表現を工夫して書こう「物語を作ろう」(光村図書 5年下)

(2) 単元の目標

- 写真から想像を広げ、構成や表現を工夫して物語を書き、交流する。

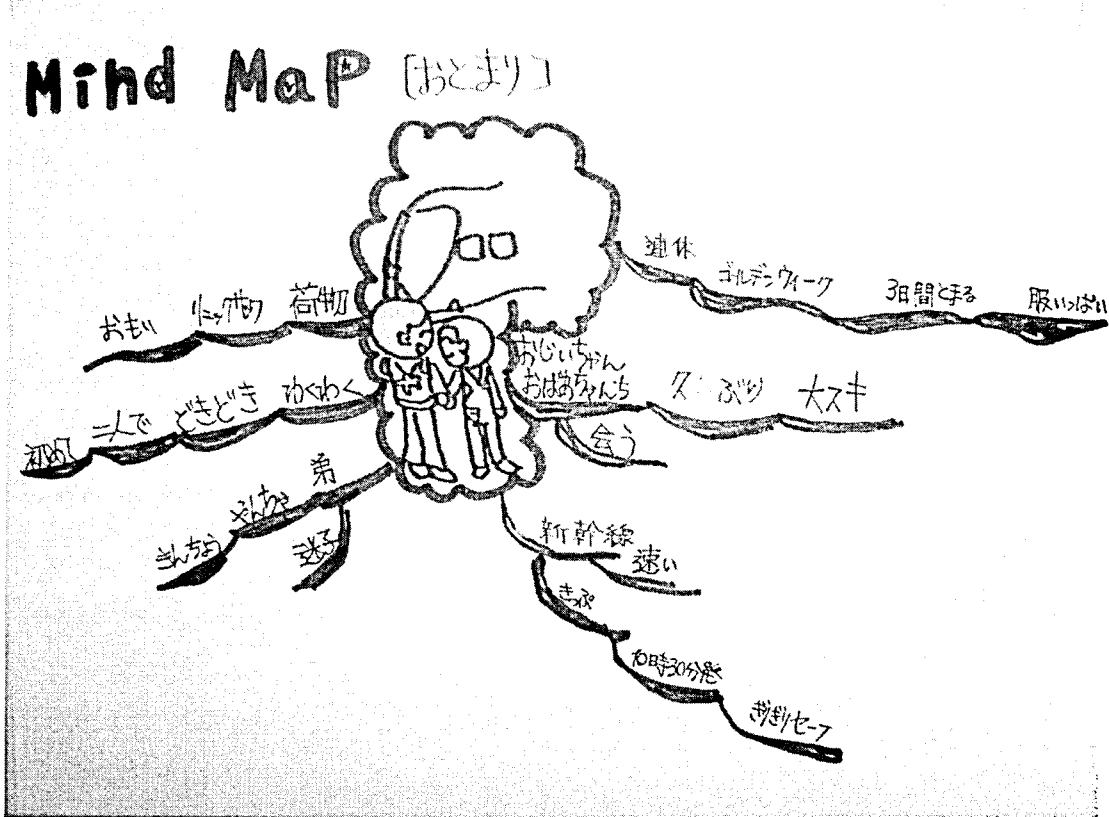
(3) 指導の経過

① 写真を選ぶ。

教科書には6枚の写真が掲載されている。物語作りへの意欲がかきたてられるものを選択させた。20名の児童が選択した写真の内訳は次のとおりである。

- ・同じ木の夏と冬の2枚一組の写真(4名)
- ・猿の写真(6名)
- ・校庭の桜(1名)
- ・船に乗る猫と人(5名)
- ・新幹線と二人の子ども(1名)
- ・カマキリ(3名)

- ② 写真から想像を広げる。マインドマップを使い、写真に映し出されている要素から想像できることや、自分の実生活で体験したことや感じたことを書き広げていく。



*カラフルなブランチ (枝) を塗る間にも空想を広げたり、思いを出したりすることができる。

- ③ 物語の内容設定 (題材) や構成要素について知る。

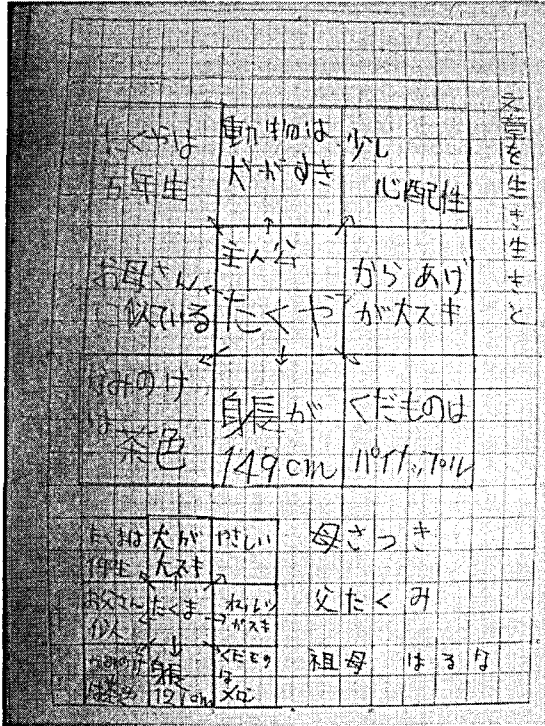
《物語の内容設定 (題材)》

- ・SF (空想科学) の話
- ・メルヘン・ファンタジーの話
- ・普段の生活の中から感じたことを題材とした話
- ・歴史上の人物や忍者が登場する話
- ・なぞ解きをしていく推理の話
- ・悪いものが良い者にこらしめられる昔話風の話

《物語の構成要素》

- ・起承転結
 - 起: 発端と展開 (だれが・なんのために・どんなことをしていくのか)
 - 承: 主人公の心の転機 (主人公の心や考え方の大きな変化と原因)
 - 転: クライマックス (主人公の心の転換の結末)
 - 結: 終結 (そしてどうなったか)

④ マインドマップで広げたイメージを、物語の構成要素を選んでマンダラートに整理する。



*マインドマップで広がった空想を整理することができる。

⑤ マンダラートをもとに、構成メモを書く。(構成メモは③の《物語の構成要素》と同じ項目)

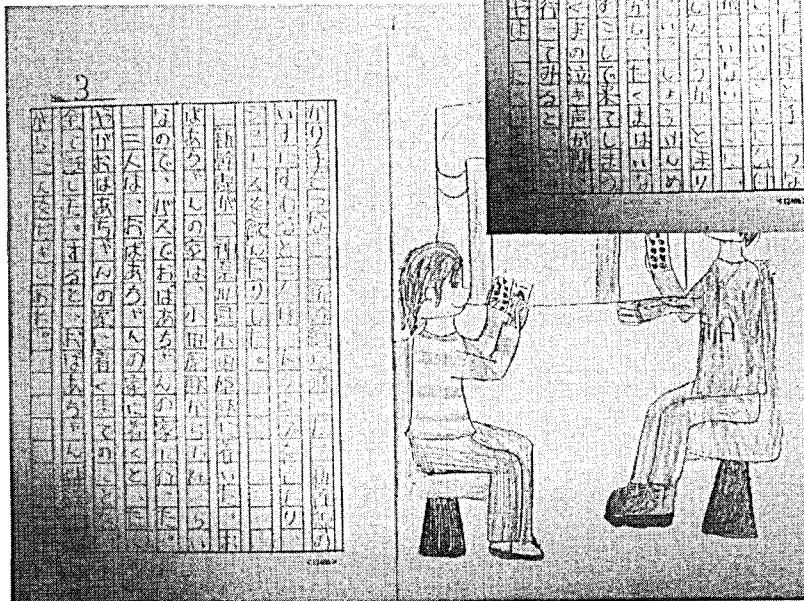
⑥ 物語の効果的な書き方を知る。

《文章を生き生きと書くための留意点》

- におい、色を書く。
- 言葉遣いに注意する。
(方言や敬語、一人称・二人称など)
- 例えや比喩を使う。
(「～みたいな○○」「～のような○○」)
- 気持ちや会話を書く。
- 物語の鍵となる小道具を使う。
(鏡や不思議な玉など)

⑦ 構成メモをもとに物語を書く。(下書き)

- 400字詰め原稿用紙を半分にし、200字ずつ書いていくようにすると、物語の修正が容易であった。

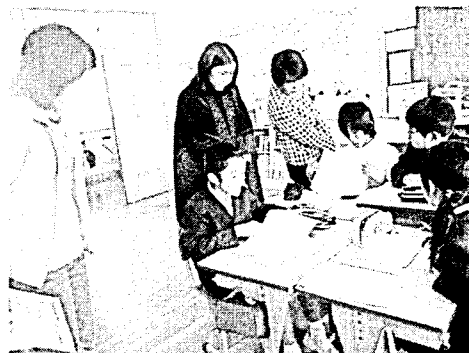


- 清書する段階で右半分の空白に挿絵を描き、物語づくりをより一層楽しむことができた。

- ⑧ 物語を推敲し，清書して挿絵を描く。
- ⑨ ペンネームや物語の題を決定し，表紙を作る。
- ⑩ 物語の自己評価をする。
- ⑪ 物語をグループで交流するとともに保護者に聞いてもらい，評価しあう。

〈手順〉

- ・ 参観日にグループ交流をした。
- ・ 書いた本人が，グループと保護者・地域の方に読み聞かせをした。
- ・ 読み聞かせのあとに評価の時間をとり，最後に評価表を本人に渡して読み合い，感想を交流した。



〈参観者である保護者や地域の方の感想より〉

- お話，みんな夢があってすてきです。書きたいと思えるところがすごいと思います。
- 物語を上手に作っている子どもたちを見て，読書が大事なんだな，と改めて思いました。
- これまでの経験をもとに書いているのだろうな，と思うものでした。その物語の中に，その時に感じていたことや思いや考え方を感じ取ることができました。聞いている最中，目頭が熱くなり，感動しました。グループで読み合っている姿がほのぼのとしていてよかったです。

《評価の観点と項目》（3段階で評価…◎・○・△）

- ・ ストーリーのおもしろさ・山場

- ・ 表現の工夫 におい・色
 方言・言葉づかい
 例えや様子
 地の文の書き方

- ・ 物語を読んだ感想

- ⑫ 学級文庫に常備し，全員で物語を読み合う。
- ⑬ 校区内の図書館の創作物語作品募集に応募する。

3 成果と課題

【成果】

- マインドマップとマンダラートを書くことで，視覚的に物語の構成要素が整理できた。構成要素を整理することでメモを書くことも容易になり，物語を書くことへの意欲が最後まで途切れることなく，児童は楽しんで物語を書き終えることができた。
- 「マインドマップ→マンダラート→構成メモ→物語」の手順で活動することで，全員が楽しみながらスムーズに物語を書きあげることができた。
- 400字詰め原稿用紙を半分にし，200字ずつ書き進めることで，抵抗なく長文を書くことができた。

文章を書くことに抵抗のある児童も 400 字詰め原稿用紙 3 枚分以上、最高で 8 枚以上を書きあげた。

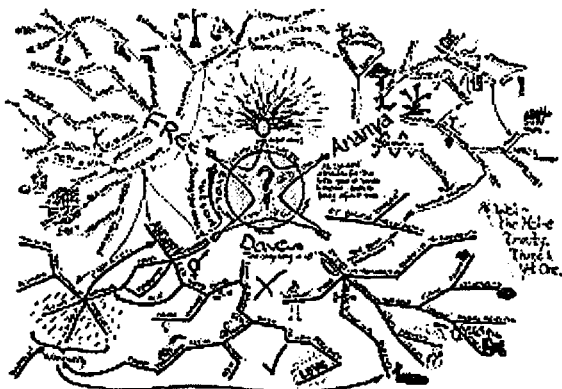
- 友達・家族・地域の方に物語を披露することができ、達成感を持たせることができた。
- 漢字・拗音・促音・撥音などの誤字・脱字が多く、常体・敬体の統一や主述のねじれも見られた。句読点を書く位置や書き方なども含めて、「書くこと」の基礎・基本について引き続き日常的に指導する必要がある。

[参考資料]

- ・ 一般社団法人ブザン教育協会 マインドマップ講座資料
- ・ よみうり博士のアイデアノート <http://www.yomiuri.co.jp/nie/note/comu/mandal-art.htm>
- ・ その他

【 資料 】

1 マインドマップ



～手描きのマインドマップの例～

マインドマップ (Mind Map) もしくはマインドマッピング (Mind Mapping) は、トニー・ブザン (Tony Buzan) が提唱した、図解表現技法の一つである。ちなみに「マインドマップ」という呼称は、日本国内においてブザン・オーガナイゼーション・リミテッド社によって商標登録されている。

表現したい概念の中心となるキーワードやイメージを図の中央に置き、そこから放射状にキーワード

やイメージを繋げていくことで、発想を延ばしていく図解表現技法。この方法によって複雑な概念もコンパクトに表現でき、非常に早く理解できるとされ、注目され始めている。人間の脳の意味ネットワークと呼ばれる意味記憶の構造によく適合しているため、理解や記憶がしやすい。また、本来は紙とペンで描くものだが、コンピュータ上で描くための専用ソフトウェアもいくつか存在する。

引用: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

2 マンダラート

マンダラートとは?

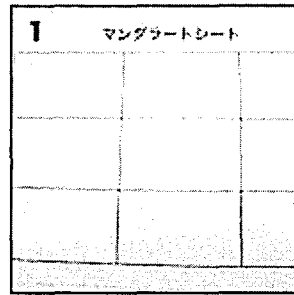
マンダラートとは、個人の頭の中を整理する道具です。

9つのマスの中央にテーマを書いて、その周りに自分のテーマについて考えたことを順番に書いていくというものです。

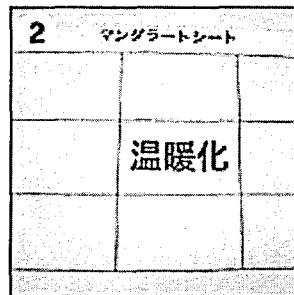
書く欄が8個しかないため、優先順位を意識させることができます。

そして、まわりにでた8つのキーワードの中から次のマンダラートのテーマを選んでいく。この方法で、子どもの考えをより深められます。

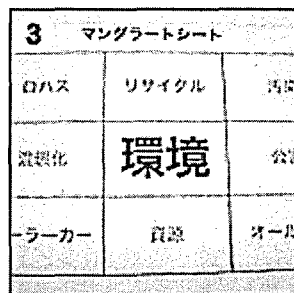
どうやって使うの？



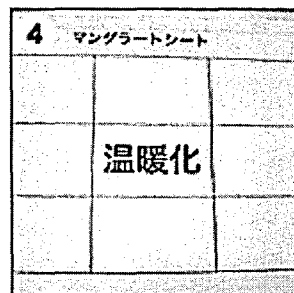
(1) 縦3，横3のマスを作ります。



(2) テーマを決めて，マスの真ん中に書き込みます。



(3) テーマ（環境）から連想するものを周りのマスに書き込みます。（順序は関係ありません。）



(4) 周りのマスの中から，また新たなテーマとなりそうな言葉（温暖化）を抜き出し，新しいマンダラートシートのテーマとして中央に書き込みます。

こんな時使ってみよう

社会や総合で，ある課題について知っていること，より深く知っていることを意識かさせる時に使えるぞ。

道徳などで，人の気持ちを考えたりする時に，いろいろなケースがあることを一覧して比べる時も挑戦してみてもいいかな。

引用：よみうり博士のアイデアノート <http://www.yomiuri.co.jp/nie/note/comu/mandal-art.htm>